

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番 23	福山市立城西中学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月4日

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区			
前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども
○各校とも児童生徒が意欲的に授業や行事に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている ○各校が、地域の施設に出向いたり、地域の方々を招いたり、地域とのかかわりを重視した学習活動に工夫して取り組んでいる ●学校間、地域が連携を深め、より多くの子どもたちが地元で中学校で過ごせるように魅力づくりを進めたい	○「子ども主体の学び」を目指し、小・中学校が連携して研究・実践を行い、授業改善を進めており、児童生徒の授業に対する意欲、積極性は高まっている ○行事等を通して、小・中学校とも集団づくり、児童生徒の主体的な活動に取り組んでおり、意欲的に頑張る児童生徒は増えている ●すべての学習の基盤となる「ことば」にこだわり、伝えたり、読み取ったりする力を育ていきたい ●引き続き、不登校児童生徒への丁寧な取組が必要である	中学校区として統一した取組等	☐ 自己肯定感を高める（児童会・生徒会の合同活動・中学校オープンスクール） ☐ コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける（幼保小中連携教育・合同授業研究） ☐ 健康への意識を高め、体力向上を図る （体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行）

III 自 校

ミッション

「元気」と「笑顔」があふれる学び舎 ～ 地域から信頼を受ける学校づくり ～

学校教育目標

心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成

現 状

生徒、及び、職員を対象とするアンケートでは、以下の状況である

〔生徒〕

項 目	2023年度	2024年度
所属している学級は温かい雰囲気がある	82.3	87.0
困ったときに相談できる相手がいる	89.3	94.5
困ったときに「自力解決」ができるよう努力することができる	87.1	90.1
学校生活は楽しい	90.5	89.6

〔職員〕

困ったときに相談できる人がいる	94.1	100.0
自分の挑戦に対して協働してくれる仲間がいる	76.5	100.0
本音を気兼ねなく発言でき、自分の個性が認められている	76.5	92.3

この項目は、生徒、及び、職員の「学校満足度」の向上につながる内容であるとともに、ミッションを果たしていく重要な要素だと考え、引き続き、指標として焦点を当てていく

教育活動を丁寧に進め、生徒、及び、職員の「元気」と「笑顔」を育み、積極的な情報発信を通して、地元の子どものための 80%以上の入学を目指す

2024年(令和6年度) 68.2%(73/107) 2025年(令和7年度) 76.2%(77/101)

育成する力
資質・能力

めざす
子ども像

全
学
年

☐コミュニケーション力・表現力・忍耐力

☐自己指導能力を育む生徒

～ 「自分のために、みんなのために」と考え、行動する生徒 ～

☐自分を理解し、お互いを認め合い、高め合う

☐自ら疑問や課題を見つけ、解決に向け、自分や仲間と考え、学び続ける

☐自分たちの生活をよりよくするために、仲間と協力し、粘り強く取り組む

研究

テーマ

内容等

めざす授業の姿

主体的な学びをめざした授業づくり ～ 問題解決的な授業を通して ～

「問題解決的な学習展開と結び付けた総括的な評価問題」の作成と分析

・ 学習活動が主体的・自律的である

・ 明確な課題意識をともなった活動である

・ 目標達成、及び、課題解決への営みが持続されている活動である

・ 目標達成、及び、課題解決に役立つ情報に敏感になっている

・ 目標達成、及び、課題解決に見通しを持って取り組み、期待が持てる活動である

・ 活動の経過とともに、はっきりと成果物などの変化がある

Ⅳ 目標□取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城西中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
6	主体的□対話 的で深い学び による学習意欲 と学力の向上	★	継 続	自身の伸びを 実感できる生 徒の育成	○学習相談 を充実させる ○「問題解 決的な学 習展開と 結び付け た総括的 な評価問 題」を作 成□分析 して、授業 改善を進 める	■自身の伸び に係る質問 に肯定的な 回答をする 生徒の割合 を前年度以 上にする ■評価問題通 過率50%以 上 ■学力調査正 答率40%未 満の生徒の 割合を前年 度以下にす る	□自身の伸びに係る質問 「互いに協力しながら課題 の解決に取り組んでいる」 (前年度) 1年94、2年94(77)、3年 91.8(62.5) □学力調査正答率40%未 満の割合(前年度) 1年国語15.6、数学18.6 2年国語20.8(28.3)、数 学56.9(48.6) 3年国語43.5(38.6)、数 学56.2(71.5) ※前年度データは学力の 伸びを把握する調査より抜 粋	3	3	○放課後や長期休 業中の学習相談 日を計画的に実施 する。 ○全教科で課題を 明確にした授業展 開とまとめを意識 した授業実践を行 う。 ○授業参観期間を 実施し、生徒の姿 から授業改善を実 施する。	□自身の伸びに係る質問 「互いに協力しながら課題 の解決に取り組んでいる」 (中間評価) 1年90.5(94)、2年88.6 (94)、3年94.1(91.8) □評価問題通過率50%以 上の教科 1年数学・美術・保健・技術・ 英語/2年社会・数学・技術/ 3年技術	4	3	3	○全教科で課 題を明確にし た授業を展開 し、個々の学習 達成度に応じ た適切な評価 を行う。 ○授業参観期 間を継続し、授 業改善を実施 する。 ○家庭学習の 習慣をつける ため、週末課 題を準備し、小 テストなどで 成果を確認す る。
6	自己指導能力 の育成	★	継 続	誰もが安心して生活できる 学年・学級集 団の確立	○活動を通 して生徒 どうしを つなぐ取 組を充実 させる ○生徒との 会話を積 極的に進 め、生徒 理解を図 る。また、 面談ウィ ークを学 期に1回 実施する ○事実確認 等の初動 を重視し、 指導体制 を機能さ せる。保 護者、地 域、関係	■生徒指導上 の諸問題の 出現率を前 年度以下に する ■新規の長期 欠席者(不 登校)を0名 にする ■相談室経営 方針を共有 する ■①「所属し ている学級 は温かい雰 囲気がある」 ②「困った ときに相談 できる相手 がいる」 ③「困った ときに自力 解決ができ	□7月末現在の比較 【暴力行為】 昨年度2件 / 今年度1件 【いじめ認知件数】 昨年度5件 / 今年度3件 【問題行動(特別な指導)】 昨年度30件/今年度8件 □よりよい人間関係を育て る学級経営の充実を図る ための校内研修を実施し ている。 □新規の長期欠席者(不 登校)は、4名である。 □各関係機関との連携を 定期的に図っている。 □相談室経営の方針につ いては、学校通信、学年通 信等で生徒、保護者にも紹 介している。生徒について は、学年集会等でも周知し	3	3	○対人スキル、感 情コントロールな どの習得に向け、 ソーシャルスキル トレーニング等取 り入れ、生徒指導 上の諸課題の未 然防止・再発防止 に努める。 ○学年や学級の集 団づくり(絆づ くり)の取り組みを、 現状に応じて再考 し、実践する。 ○定期開催の生徒 指導対策委員会を 継続し、各学年の 情報を共有し、取 組方針を協議す る。(教育相談体制	□1月末現在の比較 【暴力行為】 昨年度4件/今年度1件 【いじめ認知件数】 昨年度7件/今年度8件 【問題行動(特別な指導)】 昨年度55件/今年度9件 □生徒指導対策委員会を 定期開催し、情報の収集・ 共有、指導・支援などの行 動連携等、チームサポート で多くの視点から再考・実 践することができている。 □いじめの認知件数にお いては、積極的な認知に向 けて、生活日記、面接ウィ ークによる個人面接、アンケ ート調査等を行うとともに、 重大事案につながる前の 迅速かつ丁寧な初期対応	4	3	3	○生徒指導上 の諸問題の未 然防止に向け て、教育相談 体制のさらなる 充実を図る。 ○生活日記や 面接ウィークを 設定し、いじめ の積極的な認 知を行う。 ○長期欠席者 については、関係 機関と連携し、 支援の在り方を 明確にしていく。

					機関等との連携を強化する	よう努力することができる」 ④「学校生活は楽しい」について95%以上にしている	ている。 □生徒アンケートでの肯定的評価は以下の通りである。 ①95% ②95% ③90% ④89% □絆づくりの推進として、学校行事や学級活動等の充実を図る中で、学年・学級リーダーを中心とした取り組みを意図的に仕組んでいる。		のさらなる確立・強化) ○生徒一人一人についての理解と対応方法、学級集団の状態と今後の学級経営の方針等を客観的に把握するためのアセスメントを行い、望ましい人間関係づくりを推進する。 ○面接ウィークを継続して設定し、アセスメントに基づく、PDCAの実践を行う。	を校内研修等で確認した。 また、いじめが生じた際に、事案によっては、各関係機関とも連携を図っている。 □新規の長期欠席者（不登校）は、8名である。 □長期欠席者、家庭内状況が不安な生徒については、保護者や各関係機関と綿密な連携を図り、支援の在り方を明確にすることができている。その結果、どこにもつながっていない生徒は0名である。 □生徒アンケートでの肯定的評価は以下の通りである。 ①96% ②97% ③84% ④92% □絆づくりの核となる学校行事、学級・生徒会活動ともに、3年生や各学級・学年のリーダーを中心に、取組をさらに充実させることができた。各学年のリーダーを鍛えるために、リーダー会の定期開催を行った。				
2	職員の「元気」と「笑顔」	継続	授業づくりへ向かう時間の確保と互いのよさを生かした授業力の向上	○学年会等で、生徒の学びの姿を具体的に挙げ、授業づくりの方向性を共有して教材研究を進める ○業務改善に取り組み、勤務時間外在校時間について自己管理を進める	■①「困ったときに相談できる人がいる」 ②「自分の挑戦に対して協働してくれる仲間がいる」 ③「本音を気兼ねなく発言でき、自分の個性が認められている」について95%以上にしている	□福山教育アンケート結果 ① 92.3% ② 84.6% ③ 76.9% □業務の効率化のために職員室内の整理整頓を実施した。（夏季休業中を利用）	3	3	○職員間の相互理解や報連相など、共通認識に基づいた推進体制を整備し、その機能について相互評価を行う。 ○継続的な進捗状況の確認・調整のもと諸活動を推進する。（「いつまでに」「誰が」「何を」） ○行事や諸活動の終了後に次年度	□学年会や分掌会で生徒の学びの姿について共有し授業改善につなげることができた。 □業務の効率化を図るため、見通しを持った行事の企画・運営を図った。	4	3	3	○運営委員会で協議を行い業務改善の焦点化を図る。 ○業務の偏り等、次年度を視野に入れた業務の適正化を図る。 ○同僚性を発揮し、円滑で働きやすい職場づくりを推

					■仕事や生活の満足度を高める			(今後)に向けた内容の見直し・精選を必ず行う。 ○机上整理、職員室の整理整頓を定期的に実施し、業務効率を図る。					進する。
--	--	--	--	--	----------------	--	--	--	--	--	--	--	------

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。